

ISSN-1348-8872

AMAMI News Letter

NO.16



■特集：公開シンポジウム－新しい奄美世界の創出－(1)

和泊町シンポジウムの記録掲載にあたって

シンポジウム開会のあいさつ

プロジェクト代表あいさつ

基調講演：持続的・自立的社会の創造に向けて

■研究調査レビュー

奄美群島における風化残積土（赤土等）の土質特性（その2）

書評：「島嶼圏開発のランドデザイン」編

『奄美と開発－ポスト奄振事業と新しい島嶼開発』

■しまゆむた

沖永良部島の日本復帰運動

奄美ニューズレター

鹿児島大学

2005年3月

■Special Report :

Public symposium on Creation of a "New Amami"

- 1 The Wadomari Symposium
Hirai Kazuomi (Director)
- 2 Opening Speech
Izumi Sadayoshi (Mayor, Wadomari Town)
- 3 Address from the Project Leader
Yamada Makoto (Project Leader)
- 4 Aiming to Create Sustainable and Independent Communities
Minamura Takeichi (LEH)

■Research Review

- 19 Soil properties of residual soils in the Amami Islands (2)
Kitamura Ryosuke (Engineering)
Fukami Kenichi (Graduate Student, Graduate School of Science and Engineering)
- 25 Book Review
"Amami and Development -Post-Promotion Project Amami and New Development in the Island Area" edited by Island Development Grand Design Team
Yamamoto Kazuya (LEH)

■Amami Report

- 29 The Movement for the Return of Okinoerabu to Japanese Sovereignty
Kawakami Tadashi (General Manager, Minami Nippon Shimbun News Agency, Wadomari, Okinoerabu)

■Information



奄美ニューズレターについて

- 奄美ニューズレターは、2003年度からはじまった鹿児島大学全学総合プロジェクト「島嶼圏開発のグランドデザイン--- 南西諸島における環境ガバナンス型地域政策」の成果を発表する目的で発刊されました。
- 奄美群島および沖縄を含む広い南西諸島を沖縄ではなく、奄美群島から分析しようという新しい試みです。
- 研究は、文化・自然・人・経済・情報・農学・工学という鹿児島大学の研究者を中心とする研究グループによって行われております。奄美ニューズレターは、その研究を広く南西諸島の研究者に公開し、わが国の島嶼研究の向上を目指すものです。
- 奄美ニューズレターは、月刊の学術雑誌であり、下記の内容を毎号掲載いたします。

- ・ 研究調査レビュー 鹿児島大学研究グループの成果発表
- ・ しまゆむた 奄美群島区の地元研究者からの現地レポート
- ・ 島嶼スケッチ 上記以外の寄稿文
- ・ 鹿大資料紹介 鹿児島大学所蔵奄美資料の紹介
- ・ ちーびし 執筆者紹介、奄美関連の行事案内、編集後記

- 奄美ニューズレターの執筆研究グループは以下のメンバーです。

研究代表 山田 誠（法文） 編集代表 萩野 誠（法文）

- 島嶼のなかの人々、人々のなかの島嶼（資源としてのヒト）
◎神田嘉延（教育）・小柳正司（教育）・狩野浩二（教育）・前田晶子（教育）
- 島嶼における情報ネットワーク（資源としての情報）
◎萩野 誠（法文）・下園幸一（法文）
- 自然環境と開発ポテンシャルA（資源としての自然）
◎北村良介（工学）・地頭蘭隆（農学）・西隆一郎（工学）
- 自然環境と開発ポテンシャルB（環境保全型自立産業としての農業生産）
◎菅沼俊彦（農学）・津田勝男（農学）・遠城道雄（農学）
- 歴史の変容と開発
◎新田栄治（法文）・糸尾達哉（法文）・原口 泉（法文）・中村直子（埋文）
- 産業・経済の変容と開発
◎皆村武一（法文）・宮廻甫允（法文）・北崎浩嗣（法文）・山本一哉（法文）
- 社会意識の変容と開発
◎石川英昭（法文）・木村 朗（法文）・平井一臣（法文）・米田憲市（法科大学院）
- 文化意識の変容と開発
◎廣瀬晋也（法文）・木部暢子（法文）・桑原季雄（法文）・高津 孝（法文）
- 島嶼コミュニティと環境ガバナンス
◎篠原隆弘（法文）・采女博文（法科大学院）・土居正典（法科大学院）・西啓一郎（法文）
- 島嶼圏政治行政システムと環境ガバナンス
◎山田 誠（法文）・朴 源（法文）・坂田裕輔（近畿大学）・前利 潔（知名町）

目次

■特集：公開シンポジウム－新しい奄美世界の創出－(1) 和泊町シンポジウムの記録掲載にあたって

平井 一臣（プロジェクト事務局長）—————1

シンポジウム開会のあいさつ

泉 貞吉（和泊町長）—————2

プロジェクト代表あいさつ

山田 誠（プロジェクト代表）—————3

基調講演：持続的・自立的社会の創造に向けて

皆村 武一（鹿児島大学法文学部）—————4

■研究調査レビュー

奄美群島における風化残積土（赤土等）の土質特性（その2）

北村 良介（鹿児島大学工学部）

深見 健一（鹿児島大学大学院理工学研究科）—————19

書評：「島嶼圏開発のグランドデザイン」編

『奄美と開発－ポスト奄振事業と新しい島嶼開発』

山本 一哉（鹿児島大学法文学部）—————25

■しまゆむた

沖永良部島の日本復帰運動

川上 忠志（南日本新聞和泊販売所所長）—————29

■ちーびし—————33